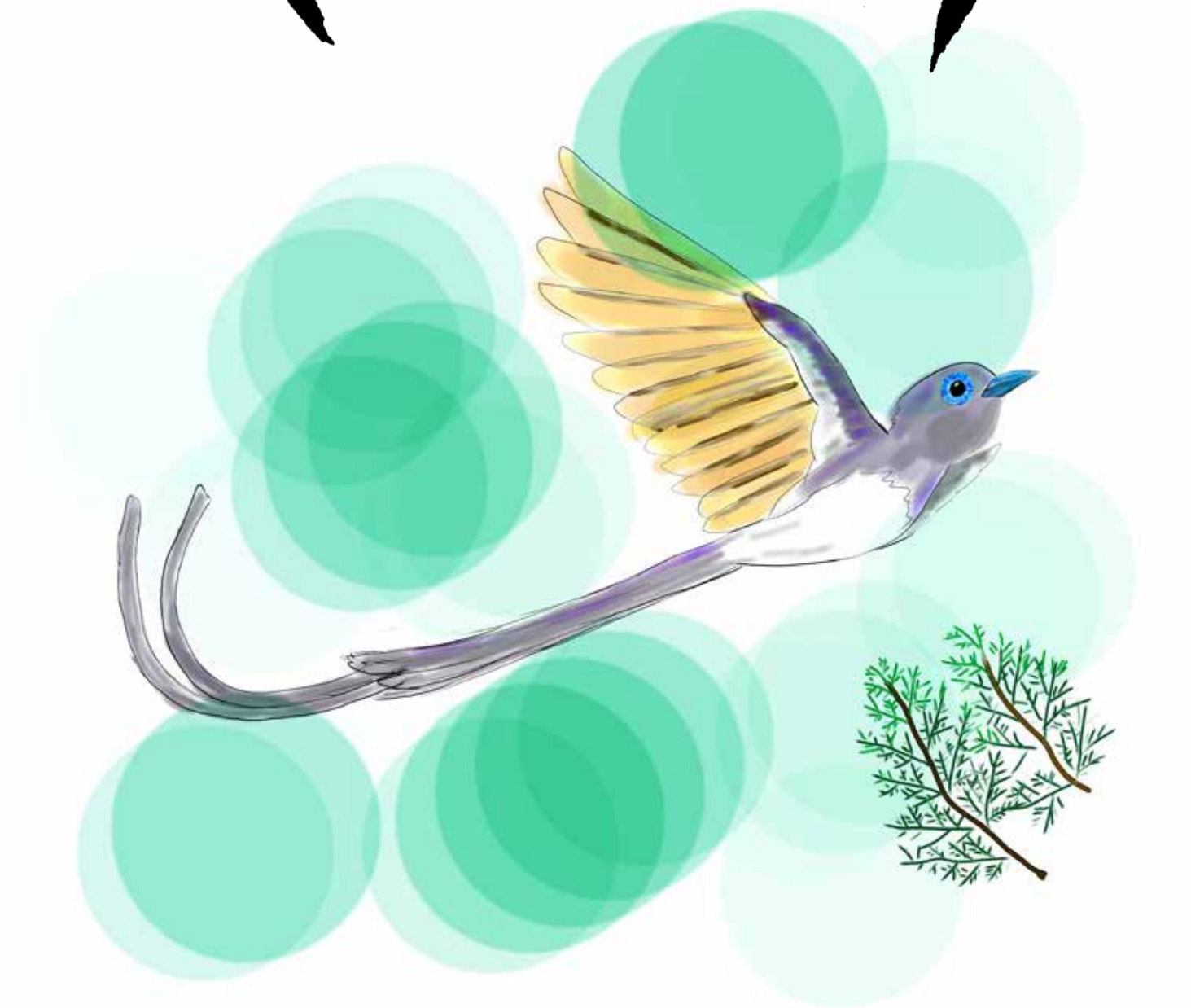
しろちどり



第 109 号

2021 年 6 月
日本野鳥の会三重　http://miebird.org/

三番瀬・干潟は地球の宝

日本野鳥の会東京・千葉野鳥の会　田久保 晴孝

東京湾越しの富士山（手前はミヤコドリの群れ）

目次

三番瀬・干潟は地球の宝 ---------- 2
表紙の言葉 ---------- 2
シロチドリを守ってください---------- 5
海蔵川の自然保護活動 ---------- 6
フクロウに巣箱を ---------- 7
地元に飛来した珍鳥あれこれ
～メジロガモ・ソリハシセイタカシギ・ナベヅル～---------- 8
シギ・チドリ類の年齢・季節による羽衣の変化
―連載第 24 回 ダイゼンとムナグロ― ---------10
ほのぼの鳥さん Watching----------16
オシドリの交尾 ----------18
理事会報告 ----------19
事務局だより ----------19
野鳥記録----------20
探鳥会予告（201 年 7 月～ 9 月）----------24
探鳥会報告（2021 年 1 月～ 4 月）----------25
編集後記----------28

三番瀬の概要

干潟では、ハマシギやミヤコドリなどのたくさんの水鳥が盛んにエサをとっています。
沖には黒い帯となって休むスズガモの群がいます。日本有数の水鳥の生息地が三番瀬です。ノリの作業をする船、アサリやホンビノスガイを獲る漁船、市川航路を進む大型の貨物船。三番瀬は漁業とともに物流も支えています。良く晴れた日には、西に白い雪を被った富士山が見えます。関東富士見 100 選の 1 つとなっています。

三番瀬はどこにあるの

東京湾の最奥部・千葉県市川市と船橋市の南にある海域（干潟･浅海域は 1800ha）が三番瀬（さんばんぜ）です。古地図には海に地番があり、そこに字西浦、字高瀬、字三番瀬などの地番があります。三番瀬の中心が字三番瀬です。なお、字西浦、字高瀬は埋め立てられて地名（西浦、高瀬）になっています。

表紙の言葉

サンコウチョウ

四日市市　三曽田 明

この絵の素にした写真を撮ったのは 2014 年の夏、県民の森の奥深いところ。ある程度身近な鳥の写真を撮ってしまっていたので、あまり行かないところへと頑張って奥深くまで行ってみたのでした。そこで聞きなれない「ギャー」と大音量の鳴き声。その正体をなんとか探り当てたら、それがこのサンコウチョウ。
そのとき「えっ、日本にこんな南国にいるような鳥がいるの！？」と思いました。なんとか写真に撮りましたが、それは木にとまっているもの。でも脳裏にはヒラヒラと飛ぶこの鳥の姿が焼き付いていたので、そのイメージで描いてみました。

三番瀬の鳥

三番瀬では、スズガモ 10 万羽（日本一）、ハマシギ3,000 羽(日本有数)、ミヤコドリ 500 羽(日本一）など約 200 種の野鳥が確認されています。

三番瀬は 2017 年シギチドリ類調査（春期）で全国の 3 番目（3,196 羽）でした。(環境省)

環境省は、三番瀬を重要湿地 500 の一つに入れ、さらにラムサール条約湿地登録を目指す重要 17 湿地に指定しています。

休息場所や寝場所は堤防の上

埋め立てと三番瀬

ふなばし三番瀬海浜公園の浜に立つと、東には習志野市の埋立地の巨大な倉庫、西には浦安市の埋立地の高層マンション群が見えます。そしてこの海浜公園も干潟を埋め立てて造られた埋立地です。(船橋市と市川市の干潟・浅海域の半分が埋め立てられています)

東京湾は 20%（25,000ha）が埋め立てられ、干潟の 90% が失われています。千葉県は、戦後浦安市から富津市にかけて、12,000ha も埋め立ててしまいました。市川二期・京葉港二期埋め立て計画（740ha　1993 年）は、埋め立て反対運動などで白紙撤回させました（2001 年)。この保全された海域が三番瀬（1800ha ）です。

シギの群れの中のミヤコドリ

干潟は地球の宝

干潟とそれに続く浅海域は地球上では極小さい面積ですが、熱帯雨林と同等に生物が豊かで、生物多様性に富むところです。干潟の砂と砂場の砂は、砂粒そのものは同じです。干潟の砂の周りには水と空気と栄養塩や有機物があり、たくさんの細菌や微生物が生息しています。砂場の砂には微生物がほとんどいません。

干潟に光が当たるとケイソウなどソウ類が大増殖し、微生物やソウ類、海水中の植物・動物プランクトン、有機物などをエサにしてゴカイ類やカニ類、貝類などの底生動物や魚類が増えます。たくさんの水鳥がこれらのエサを求めて飛来する。三番瀬では、今もノリ、貝、魚の漁業が盛んに行われています。

三番瀬をラムサール条約湿地に登録するように運動中です。

三番瀬の冬　　2020 年 12 月～ 2021 年 2 月

冬は秋の渡り（キアシシギなどの旅鳥が去って、冬鳥が飛来）がすぎ、冬鳥と留鳥で安定的に生息する季節です。冬鳥はスズガモ、ハマシギ、ミヤコドリ、ユリカモメ、セグロカモメ、オオバン、ハジロカイツブリなど、留鳥はカワウなどです。

今年の冬（2020 年 12 月～ 2021 年 2 月）に、15 回の水鳥調査で 60 種の野鳥を確認しました。ふなばし三番瀬海浜公園から望遠鏡で確認できる範囲には、スズガモが公園前面の海域に最大数 10,000 羽。カモ類は 10 種、シギ・チドリ類は 9 種、カモメ類は 8 種、そしてスズメ目は 21 種でした。個体数では、多い順にスズガモ、ユリカモメ、カワウ（3,000 羽)、セグロカモメ、ハマシギといったところです。

カモ類の状況

（種名：最高羽数・最高羽数の月日の順です）

①スズガモ	：	30,000 羽	1/ 1	②オナガガモ	：	250 羽	1/31
③ヒドリガモ	：	110 羽	12/ 4	④ホシハジロ	：	35 羽	1/10
⑤ウミアイサ	：	26 羽	1/11	⑥ホオジロガモ	：	14 羽	1/ 1
⑦オカヨシガモ	：	7 羽	12/13	⑧コガモ	：	3 羽	2/ 7
⑨ヨシガモ	：	1 羽	12/ 4	⑩ビロ - ドキンクロ	：	1 羽	12/ 4 ～ 2/27

シギ・チドリ類の状況

①ハマシギ	：	1,300 羽	2/22	②ミヤコドリ	：	430 羽	1/10
③ミユビシギ	：	155 羽	2/27	④ダイゼン	：	55 羽	1/ 5
⑤シロチドリ	：	51 羽	12/13	⑥ダイシャクシギ	：	6 羽	2/ 7
⑦ハジロコチドリ	：	1 羽	2/27	⑧イソシギ	：	1 羽	12/ 4 他
⑨トウネン	：	1 羽	2/14、2/27				

カモメ類の状況

①ユリカモメ	：	4,000 羽	2/14	②セグロカモメ	：	1600 羽	1/10
③ウミネコ	：	500 羽	12/ 4	④カモメ	：	50 羽	2/22
⑤ズグロカモメ	：	5 羽	2/ 7	⑥オオセグロカモメ	：	5 羽	12/13
⑦シロカモメ	：	1 羽	1/10 他	⑧ホイグリンカモメ	：	1 羽	2/ 7

ミヤコドリの状況

昨年の夏もT6のフラッグ付きのミヤコドリ（以下T6ミヤコドリとします）を含む若鳥が40羽ほど越夏しました。9月末からは越冬群が増えて11月1日に511羽（これまでの最高羽数）を記録しました。満潮時は東側の防泥堤で集団で休息したり、干潮時に干潟に降りて採餌します（夜間も採餌）。冬季には多くの個体が江戸川放水路へ採餌にでかけます。餌はシオフキやマガキなどです。

そんな中で、T6ミヤコドリが、2020年12月25日に安濃川で確認されたという情報を、日本野鳥の会東京・研究部の川内 博さんから聞きました。三重県在住の久野正博氏が、48羽の群れの中で撮影確認されたとのことでした。

実は、T6ミヤコドリは、11月5日までは三番瀬にいましたが、それ以降は確認ができていませんでした。しかし、2021年1月25日には再確認できましたので、ミヤコドリが東京湾の三番瀬と伊勢湾の安濃川を行き来していることが初めて記録されました。

ところで、ここのところダイシャクシギ6羽が（これまでの最高羽数）が、秋に生息していた葛西海浜公園から飛来しミヤコドリと行動を共にしています。

そんなことをまだまだお伝えしたいのですが、今回はこれまで。今後、東京湾と伊勢湾の情報交換・交流が深まればと願っています。

T6ミヤコドリ（写真中央）

シロチドリを守ってください

津市　西口 恵子

はじめまして、津市白塚町の白塚海岸（昔は豊津浦とも言われましたが現在は言われなくなりました）で保護活動をしている任意のボランティア団体「白塚の浜を愛する会」代表の西口です。

白塚海岸は伊勢湾内で一番広い自然豊かな砂浜です。波打ち際から堤防までが 140m ある奥行きのある砂浜です。伊勢湾内でほとんど無くなってしまった広い砂浜には多数の絶滅危惧種が生息しています。その中のひとつがシロチドリです。皆さんご存知のように三重県を代表する鳥です。三重県庁の正面玄関のエレベーターのドアにはシロチドリが大きく描かれています。

4 月頃からシロチドリは産卵時期に入ります。以前は、植生が何もない裸地から海浜植物群落が始まる場所に産卵をしていましたが、散歩をする人が多いためか、孵化に至らないことが多くありました。最近は海岸の奥に広がる植生がまばらな場所では毎年繁殖が成功しています。幼鳥が親鳥の付近をちょろちょろと歩く姿は、人間と同じようでかわいいものです。しかしながら、奥に広がる砂浜の中でも、以前は何度も繁殖地として利用されていた場所に海浜植物以外の高い草が繁茂しだした途端、その場所では産卵をしなくなりました。シロチドリの繁殖場所が自然の力でなくなってしまいそうです。

除草作業を終えた白塚海岸

草原化が進む白塚海岸

砂浜は海と並行に砂浜の硬さや自然環境が変化していきます。白塚海岸では奥に広がる植生がまばらな場所は、台風等で攪乱されることもなく、砂浜も硬いので安定した場所になります。この場所が、シロチドリの繁殖地となっていますが、新設された志登茂川浄化センターの高い建物により風の吹き抜けが悪くなり、海浜植物以外の外来植物や路傍植物が繁茂し急速に草原化が進んでいます。

白塚の浜を愛するでは、シロチドリの繁殖場所である植生がまばらな場所を維持する為に、除草作業を毎月第三日曜日に行っています。私たちは「少人数で広い海岸の除草作業をこれ以上続けていくのは無理です。」「シロチドリが繁殖をしていると知ってしまった責任で保護活動を続けています。」「白塚海岸が良好な砂浜でなくなったらシロチドリは何処で繁殖を続けられるのですか？」「もうシロチドリを見なくなってしまったねでいいのですか。」「地元のおばさんが集まって作った任意のボランティア団体だけに任せているっておかしいでしょう。」と三重県知事に言いたい。

毎年、800m × 140m の海岸全部を除草して欲しいと言っているのではありません。自然環境の状況を見ながら部分的に継続して行えばいいのです。草を抜くだけです、高額な予算が必要とも思えない事業です。こんなにも簡単に思えることが三重県知事はどうしてできないのでしょうか？三重県を代表する鳥ですよ。

野鳥の会の皆さんもシロチドリが白塚海岸で繁殖が続けられるように、ご協力をよろしくお願いします。

海蔵川の自然保護活動

四日市市　川瀬 裕之

野鳥とは直接関係はございませんが野鳥の保護活動の参考になればと思い、私が行っております海蔵川での希少種保護活動についてお話したいと思います。

海蔵川は四日市のほぼ中心を流れる川で鈴鹿山脈を源流とし菰野町を東西に流れ、四日市港に河口を広げる全長 18.7km の 2 級河川です。特に中流域では河畔林が茂り市街地近郊の川とは思えない自然を色濃く残しています。この川岸をコースに年 6 回「海蔵川で鳥見 ing!」という名の探鳥会を開催しております。水辺から里の野鳥まで種類豊富に観察する事ができます。

国が建設を進める北勢バイパスルート上に海蔵川があり、その橋脚建設場所こそ海蔵川で生物相が一番濃く、かつ希少種が多く生息している場所であったため、国土交通省にその場所の重要性や今後の工事における環境に対してのインパクトなどを提言するため、「海蔵川探検隊・うみくら」

海蔵川の風景

という団体を 2005 年に初代代表である尾畑玲子氏が立ち上げました。その場所にはイチョウウキゴケという国内で唯一の水面に浮遊するコケ（苔類）の一種が繁殖する個所でした。普通は水田

準絶滅危惧種イチョウウキゴケ

などの止水で生活するコケですが、海蔵川では河川内で繁殖している点で恐らく国内ではほとんど例がありません。

初めは工事中止やルート変更を求めましたが、事業規模が大きいため不可能でした。しかし工事該当箇所に生息する希少種は出来る限り保護保全すると回答を得ました。我々の希望は工事個所全般の環境保全でありましたが、しかしながら希少種、それもイチョウウキゴケのみの保全となってしまったのは残念でした。しかし何もしなければその場所でのイチョウウキゴケは絶滅する恐れがあったので、国交省と協力のもと保全活動をスタートしました。具体的にはイチョウウキゴケが自生している場所を表土ごと剥ぎ、事前にピックアップした場所へ移植するとう事を行いました。もう 10 年ほどになりますが、移植に成功した個所は 1 箇所だけでした。その成功した場所を現在は少しずつ様子を見ながら手を加えて改良しています。

現在わたくしが代表を引き継ぎ、毎年国交省と打ち合わせを行っております。この活動を通じて感じた事は、例え相手が国であっても声を出さないと何も始まらないと思いました。幸いにして海蔵川ではわたくしたちの意見が反映され、開発と自然保護という相反するところのそれぞれの妥協点というべき対処を行うことができています。しかしながらバイパス工事完了後も引き続き経過観察を行い、事あらば都度国交省に提言するという長期的な取り組みも必要だと思っています。

野鳥とは関係のないお話でしたが、鳥たちが安心して生息出来る環境づくりという面でこの経験を活かして今後は海蔵川だけではなく市内の様々なフィールドで活動を行っていきたいと思います。またこの活動を通じて知り合った沢山の自然保護団体と野鳥の会との橋渡し的な事ができればと思っております。

フクロウに巣箱を

津市　平井 正志

野鳥の会三重ではフクロウの巣箱を掛けています。フクロウは樹洞で営巣しますが、近年、樹洞のある木は倒れたり、倒れると危ないという理由で伐採されることが多く、フクロウが住宅難になっています。フクロウは自分で巣材を運んで巣を作ることはしません。樹洞がなくなると、人の建てた空き家を利用したり、カラスの巣を奪って使うなどします。

当会では 2016 年から巣箱を掛けはじめ、現在は合計 8 個の巣箱を掛けました。うち 1 個は 2018 年から営巣が始まり、毎年 2 羽のヒナが巣立ち、今年も営巣が確認されています。今年、2021 年は新たに 2 か所でヒナが確認されました。今後も営巣の可能性のある場所には巣箱を掛け、フクロウの繁殖を助けたいと思っています。

以前にフクロウがいたが、現在はいなくなった場所は巣箱を掛けるのが効果的です。会員の皆様で、巣箱を掛けたい場所があればご連絡ください。検討したいと思います。

フクロウはとても人気があり、写真を撮る人が大勢集まり、フクロウの繁殖を妨害になる可能性があります。残念ながら、巣箱設置場所を公開することができません。現在、会のごく少数の会員が場所を知っているだけです。今後も当面は巣箱の位置を非公開とする予定です。

自然林内で活動するフクロウ　（撮影：林 益夫）

地元に飛来した珍鳥あれこれ
～メジロガモ・ソリハシセイタカシギ・ナベヅル～

松阪市　小野 新子

☆メジロガモ

それは４人でガンカモの調査をしている時だった。小さな池の葦の隙間から見慣れない茶色のカモが見え隠れしていた。以前に一度見たことのある鳥だが誰も名前が出てこない。図鑑をめくってそれがメジロガモであることをやっと思い出した。

日陰では赤銅色の地味な鳥だが、太陽の下では赤褐色に輝いてきれいだ。時間帯によっては葦の間に隠れてなかなか姿を見せてくれない。仲間とはぐれ一羽で見知らぬ地に来てさぞかし心細い事だろうと、我々は時々池を見回わっては暖かく見守っていた。だが私は見てしまったのだ！

ある穏やかな日、カモたちはみな顔を背に埋めのんびり休んでいた。オカヨシガモも池の中央で１羽ゆったりまどろんでいるその時だった、後ろからスーとやって来たメジロガモが、いきなりわざとオカヨシガモに体当たりしたのだ。びっくりしたオカヨシは葦原に逃げて行った。その時から私の中でメジロガモの印象が変わった。彼は一匹オオカミで肩を怒らし生きているのだと…因みに私の中でオカヨシガモは、鮫小紋の着物を着た良家の御寮さんというイメージになっている。

その後、彼（メジロガモ）は少し離れた大きな池で、他のカモと交わる事もなくしきりに潜水を繰り返していた。

☆ソリハシセイタカシギ

冬の間休んでいた朝の散歩を、日の出が少し早まってきた２月の中頃から開始した。中村川と雲出川の合流した辺りを、野鳥の気配を感じながら朝食前のウオーキングが私の日課だ。

毎年飛来するカンムリカイツブリの他に今年は珍しくカワアイサ５羽がカワウの漁に参加していた。ある日対岸近くに際立って白い鳥らしきものが動いているのを見つけた。しかし双眼鏡で覗いても遠すぎて良く分からない。２～３日はスルーしていたがやはり気になり望遠鏡を取りに家に戻った。望遠鏡で見えたのがソリハシセイタカシギだったのでちょっと興奮した。

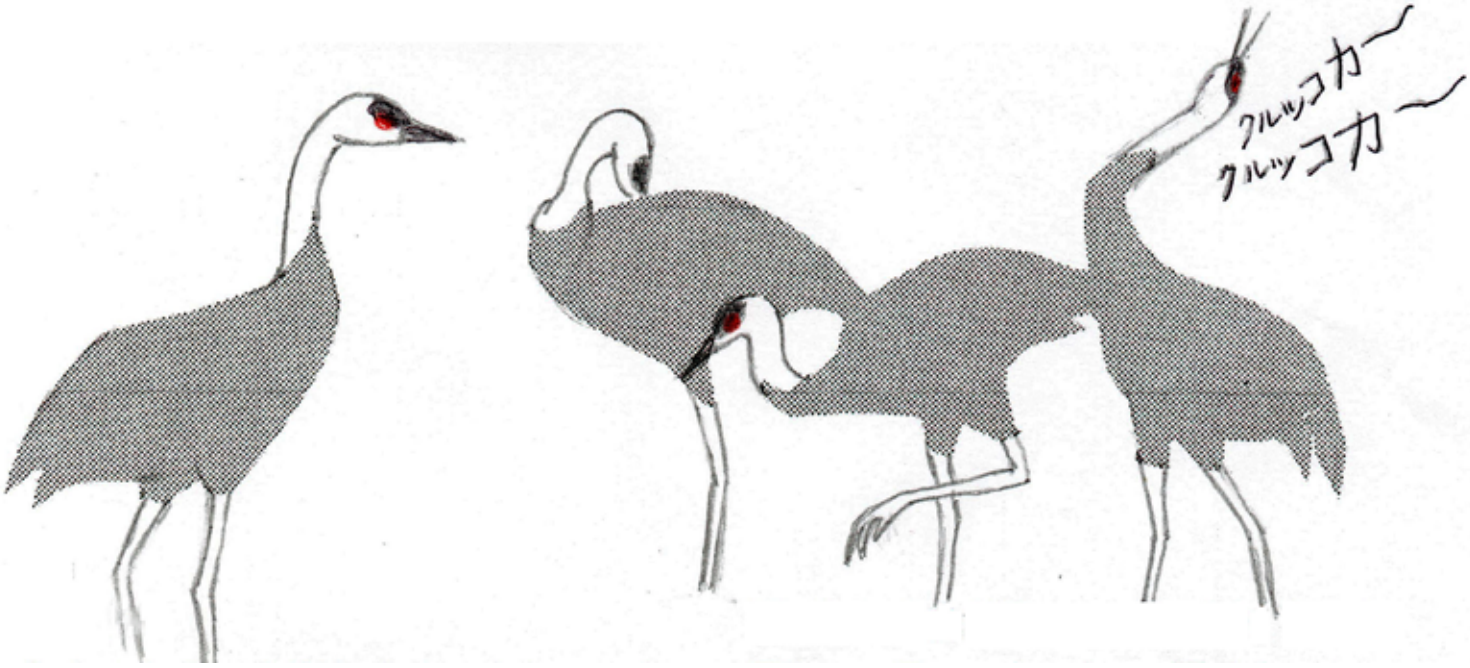
私がアボセットを初めて見たのは、当時南仏に住んでいた知人が広大な湿地帯カマルグに連れて行ってくれた時だった。フラミンゴと共にアボセットは気取った姿で立っていた。それはまるで映画「マイフェアーレディ」のオードリーヘップバーン扮するイライザが淑女としてデビューした時のように見え、さすがフランスは鳥までおしゃれ～と感動したのを思い出す…。

しかし地元に飛来したアボセットは、胸まで水に浸かり左右に首を振りながら、一心不乱に餌を探す姿はやはりシギだった。3月3日を最後に地元では確認出来なくなったが、その後何日かして古川の河口でカメラマンのモデルになっている姿を目撃した。…そんな君は、何処から来てどこに帰って行くのだろう…

☆ナベヅル

年末から我々を楽しませてくれていたナベヅル一家は、1月末以来確認されていなかった。2月末の夕方、ソリハシセイタカシシギを観察に来られていた方から、傍にナベヅルがいると連絡が入ったので急いで見に行った。中州に佇むナベヅル一家はそこにいるだけで絵になる。毎朝の散歩が更に楽しみになった。

3月3日の朝7時頃、彼らはまだ眠っていた。近くをひと回りして戻って来ると、1羽が空に向かって甲高い声で2回鳴いた。こうして彼らの一日が始まるのか…と私は思ったがどうもそうではなかったようだ。他の方が8時頃、東の空に飛んで行くのを見たのを最後に彼らの姿は見なくなった。もしかしてあの鳴き声は北帰行への合図だったのかも知れない…



シギ・チドリ類の年齢・季節による羽衣の変化
―連載第 24 回 ダイゼンとムナグロ―

津市　今井 光昌

ダイゼンもムナグロも旅鳥または冬鳥として日本各地に渡来しますが、三重県中部にも毎年、数羽から数十羽が渡来します。

ダイゼンは海岸や河口干潟を好み、内陸部で見ることはごく稀です。一方、ムナグロは海岸や干潟にも入りますが、海岸に近い内陸部を好み、草地や畑、水田の畔道などで見かけることが多いです。両種共に歩いては立ち止まり、また歩いては立ち止まるという、チドリ特有の歩き方をしながら、ダイゼンは主に干潟のゴカイ類や貝類を、ムナグロは主に内陸部の虫やミミズ類を捕食しています。

両種はよく似ていますが、ダイゼンは全長 27-31cm で、ムナグロは 23-26㎝と、ダイゼンの方が一回り大きいです。両種の識別について図鑑には、ムナグロは上面に黄色の斑があるがダイゼンにはない、ダイゼンには後趾があるがムナグロには後趾がない、などの説明があります。しかし、ダイゼンにも黄色の斑がある個体がいますし、ダイゼンの後趾は傷痕程度にしか見えない程短くて確認が難しい場合もあります。また、ダイゼンはムナグロに比べて頭が大きく、頸が太く、嘴も太い、腰が白いなどの違いもありますが、両種が同じ場所に揃っていなければ識別は容易ではありません。

一番確かな識別点はダイゼンの脇羽は黒く、ムナグロの脇羽は黒くない点です。図 1 は河口干潟で飛翔するダイゼンの群れです。細かな部位は見えなくても脇が黒いことで遠距離であってもダイゼンと分かります。尚、ダイゼンは年齢に関係なく翼下面の大部分が白いので、黒い脇羽が目立ちます。（図 2）、ムナグロの翼下面は淡い灰褐色で、脇羽は黒くなく淡褐色です（図 3）。また、ダイゼンは飛翔時に翼上面に明瞭な白帯が出て腰が白く見えるのに対し、ムナグロの腰は褐色斑があり白く見えず、翼帯は不明瞭です。

図 1　ダイゼン　飛翔する越冬中の群れ　2019.02.14

図 2　ダイゼン 第 1 回夏羽　2020.05.05

図 3　ムナグロ 成鳥 夏羽に換羽中　2014.04.07

夏羽の比較　♂成鳥夏羽

図４　ダイゼン ♂成鳥夏羽　2019.05.17

図５　ムナグロ ♂成鳥夏羽　2019.05.11

ダイゼンもムナグロも夏羽は顔から腹にかけて黒いですが、ダイゼン♂夏羽は頭頂が白っぽく、額から側頸、脇に続く白色の帯が太いです。また、体上面は黒色と白色の斑模様で白色部の白さが目立ちます（図４）。

一方、ムナグロ♂夏羽の頭頂には黄褐色斑と黒色斑があり、ダイゼン夏羽のように白くはありません。額から側頸、脇に続く白い帯はムナグロでは下尾筒まで続き、体上面は黄褐色、黒色、白色の斑模様です（図５）。

夏羽の比較　♀成鳥夏羽

図６　ダイゼン ♀成鳥夏羽　2019.05.17

図７　ムナグロ ♀成鳥夏羽　2016.05.19

ダイゼン♀夏羽は♂夏羽の黒色部が褐色味を帯びています（図６）。頭頂は♂のように白くなく褐色がかり、体上面の白色と黒色の斑も♂夏羽に比べ目立ちません。体下面の黒色部に白色が混じるなど、♀夏羽は♂夏羽に比べて上・下面とも冬羽を多く残すようです。ムナグロも♀は顔の黒色部と体上面の黒色部が褐色味を帯び、下面の黒色部もまばらで、冬羽が多く残るようです（図７）。

図８　ダイゼン 雌雄　2019.05.17

ダイゼン　成鳥夏羽 雌雄

図８のダイゼンは左が♂、右が♀です。♂に比べて♀は全体に褐色がかっています。図８の２個体は額から脇にかけて続く白い帯が太く明瞭で、完成度の高い夏羽雌雄の羽衣です。

成鳥　夏羽への換羽初期

図 9　ダイゼン　2011.04.16

図 10　ムナグロ　2020.04.23

図 9 のダイゼンと図 10 のムナグロは冬羽から夏羽に換羽初期の段階です。両種共に冬羽の雌雄の識別は困難で、夏羽換羽初期の段階では、多分♂、多分♀、程度の識別しかできません。尚、換羽中のムナグロはダイゼンより淡色の眉斑が明瞭です。

成鳥　冬羽から夏羽に換羽中

図 11　ダイゼン　2011.04.16

図 12　ムナグロ　2019.04.30

図 11 は夏羽に換羽中のダイゼン雌雄（左♂、右♀）です。♂は上・下面の黒色斑と白色斑が♀より強く明瞭です。♀は黒色部が褐色がかり、白色斑も少ないです。夏羽への換羽初期の段階では雌雄の識別が難しくても、夏羽換羽が進んでくると識別できるようになります。図 12 のムナグロも夏羽への換羽が進んでおり、顔の黒色も下面の黒色部も濃くなってきており♂と識別できます。

成鳥冬羽

図 13　ダイゼン 成鳥冬羽　2019.11.23

図 14　ムナグロ 成鳥冬羽　2016.12.10

ダイゼン冬羽の体上面は褐色で白い羽縁があります。背・肩羽に軸斑が黒褐色の羽があり、顔や胸は淡褐色で腹部は白いです（図 13）。

ムナグロ冬羽も頸や胸に褐色の縦斑がありますが、体上面は黄褐色と黒褐色の斑模様で腹部は淡褐色です（図 14）。

幼鳥

図 15　ダイゼン 幼鳥　2012.09.25

図 16　ムナグロ 幼鳥　2018.10.11

図 17　ダイゼン 幼鳥　2020.09.19

図 18　ムナグロ 幼鳥　2012.09.24

ダイゼン幼鳥はムナグロより全体に淡色気味で、体上面に黄斑はないか、少ないのが普通です（図15）。一方、ムナグロ幼鳥の体上面には黄斑が混じります。尚、ダイゼン幼鳥にも黄斑の目立つ個体がいます（図 17）。そのような個体はムナグロ幼鳥と似て見えます。また、ムナグロにも黄斑が多い個体や少ない個体がいます。図 16 の左の幼鳥は黄斑が少なく、右後方の幼鳥は黄斑が多いです。図 18 のムナグロ幼鳥は全体に黄色味が強く、頭部が小さめで頸も細く、ほっそりとした体形でムナグロの特徴がよく出ています。

第 1 回冬羽

図 19　ダイゼン 第 1 回冬羽　2012.01.03

図 20　ムナグロ 第 1 回冬羽　2015.01.17

図 19 のダイゼンと図 20 のムナグロは、共に肩羽の多くが冬羽に換羽しており、雨覆は幼羽で擦れています。三列風切には褐色の擦れた幼羽が残っています。幼羽から第 1 回冬羽の換羽は部分換羽なので、1 月頃の幼鳥は新しい冬羽と摩耗した幼羽が混在しています。

図 20 のムナグロは頭部が大きく、体も太く見え、体形的にダイゼンに似て見えますが、嘴が細く短めで、背・肩羽に黄斑が多いこと、体下面が褐色味を帯びていること、内陸部の草地に居たことも、ダイゼンではなくムナグロと識別できる根拠になります。

第 1 回夏羽

図 21　ダイゼン 第 1 回夏羽　2012.05.19

図 22　ムナグロ 第 1 回夏羽　2019.05.12

図 21 はダイゼンの第 1 回夏羽です。繁殖地に渡らず三重県中部で越夏するダイゼンは、黒と白の斑が目立つ成鳥夏羽ではなくて、黒色の斑が全くないか、少しだけある第 1 回夏羽個体が殆どで、夏羽が部分的に出る個体もいれば、体上面にも下面にも夏羽が出ない個体もいます。

図 22 はムナグロ第 1 回夏羽です。三重県中部で 5 月下旬から 7 月の間にムナグロを見たことがないため断言できませんが、ダイゼン第 1 回夏羽と同様に、ムナグロ第 1 回夏羽も体上・下面に夏羽が出ないものから少し出るものがいるのではないかと思っています。

最後に

図 23　ムナグロ　2014.01.28

図 24　ダイゼン　2019.05.11

図 23 は厳寒期のムナグロ成鳥夏羽です。1 月下旬から 3 月上旬まで越冬していました。厳寒期の成鳥は冬羽に完全換羽しており、4 ～ 5 月に見られるような夏羽を見ることは普通ありません。
また、図 24 のダイゼン第 1 回夏羽は脇羽が褐色です。ダイゼンは年齢に関係なく脇羽が黒色もしくは黒味の強い褐色なので、ムナグロを疑いますが、翼下面の大部分が白い、腰が白い、後趾もありました。換羽異常の個体もしくは特異な個体と言うのでしょうか。図鑑の説明に出てこない個体が稀にいると言う事実を知ることも大事ではないかと思っています。

お詫びと訂正

2021 年 3 月発行　しろちどり 108 号に掲載しております
「シギ・チドリ類の年齢・季節による羽衣の変化　―連載第 23 回 ケリとタゲリ―」記事内（11 ページ）にて、左下写真**「図 18　♂成鳥夏羽　2011.04.09」**の記載が間違えておりました。
正しくは**「図 18　♀成鳥夏羽　2011.04.09」**です。お詫びして訂正いたします。　　編集部

ほのぼの鳥さんWatching

阪内川で探鳥

松阪市 中村 真理子

今回は松阪在住のワタクシがオススメの散歩＆探鳥コースである阪内川をご紹介します。

場所は松阪ICを降りてまっすぐ走った先の橋の右横になります。

駐車場

ゴミ収集所の横から入ると空き地に５～6台駐車可。
トイレのある近くの『鈴の森公園』に停めて歩くのもいいし
買い物や食事もできるパワーセンターに停めるのもいいです。

阪内川のココが魅力!!

- 松阪の中心地でありながら鳥さんがいっぱい見られる!!
- 大きな木と桜並木が立派!!
- 鳥さんとの距離が近い!!
- 高確率でカワセミに会える!!
- 山の鳥も水鳥もまとめて見られる!!

P 鈴の森公園

パワーセンター P

至 松阪IC

春 初夏 堰き止められている時にはシギチもみられます

冬 イワツバメが飛んでます

春 川に落ちる勢いで咲く桜は見事です

春 渡りの季節にはオオルリやルリビタキが

冬 風物詩 ユリカモメの大群

ここに来るユリカモメは早朝にエサをあげにくる人がいてとても人慣れしています。欄干や街灯にとまっている間はいいのですが、時には車道にまで進出するちょっと(だいぶ)困った子もいます。

茂みに隠れて対岸のカモ類を観察

中州にもモズなどがいます

ゲートボール場

冬 アカハラ、ジョウビタキ
春 バンやヒクイナが潜んでます

通年
ヒヨドリ、キジバト、メジロ、カワラヒワ
ホオジロ、カワウ、サギ類、カイツブリ
ムクドリ、コゲラ、スズメ、エナガ、カルガモ等
常駐組で賑わいます

オシドリの交尾

四日市市　笹間 俊秋

2021 年 2 月に、ある溜池でオシドリを観察していました。オシドリは警戒心が高く、なかなか木の茂みから出て来てくれません。この日、私は溜池の対岸でなるべく動かずに木の奥にいるカモを観察すること 1 時間、ようやく警戒を解いてオシドリが木陰から出て来てくれました。

すると、オシドリ雌が丸太のように浮いている周りを雄が鳴きながら、雌の様子を伺っています。そして雄が乗りかかると雌を水中へ沈めて絡んでいました。オシドリの交尾です。

ここは越冬地で繁殖地ではありません。まさかオシドリの交尾が見られるとは思いもよりませんでした。おそらく繁殖地へ向かう前のつがいの絆の確認ではないでしょうか。

① 雌が丸太のように浮いています

② 雄が鳴きながら近づきます

③ 雄が雌を沈めるように乗ります

④ 水中で絡みながら沈んでいきます

⑤ 突然、雄が浮上。雌は沈んだまま

⑥ しばらくすると雌も浮上しました

理事会報告

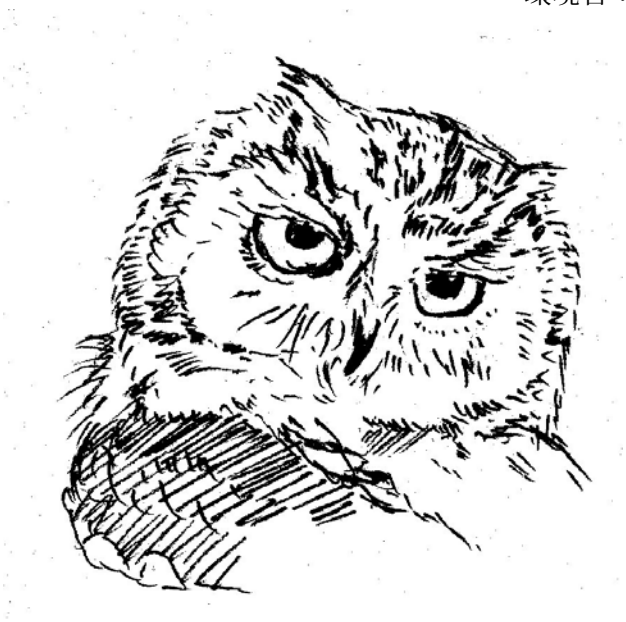
2021 年　3 月 21 日（日）　津市安濃町公民館　出席：11 名

【協議事項】

1. おためし入会について
   探鳥会当日に入会係を配置する（リーダー以外）。
   正式入会は意思があれば OK とする。
2. 探鳥会（4 ～ 7 月）の開催について
   会員限定 = リーダーに確認を取る。
   HP で知らせる。
   会員限定で開催（当日入会可能）
3. サントリーファンド
   助成金 12 万円
   海岸パンフレット A5 版、看板
4. 総会について
5. 役員改選
6. 会報誌「しろちどり」発行スケジュール
   年 4 ～ 5 回発行
7. 四日市市足見川工事問題
8. 木曽岬干拓地問題
9. 鈴鹿青少年の森
   樹木伐採　サッカー場建設
10. その他
   LINE グループ、ツバメ見守り（表彰）

【報告事項】

1. 紀伊長島 大島　ドブネズミ
   環境省：駆除の方向



オオコノハズク

事務局だより

活動の記録（2021 年 3 月～ 4 月）

2021 年

3/ 9	会報誌「しろちどり第 108 号」発行・発送作業
3/ 1 ～ 20	県委託・令和 2 年度カワウねぐらコロニー調査実施
3/21	2020 年度第 2 回理事会（津市）
3/31	2020 年度決算作業・2021 年度予算（案）の検討
4/ 1	「2020 年度公益信託サントリー世界愛鳥基金」助成により 「シロチドリ保護看板」設置許可を三重県津建設事務所に申請
4/17	津市　香良洲海岸に「シロチドリ保護看板」2 基を設置
4/18	津市　白塚海岸に「シロチドリ保護看板」3 基を設置
4/30	会報誌「しろちどり第 109 号」編集作業

野鳥記録（2021 年 2 月 8 日から 2021 年 4 月 30 日までに報告があったもの）

鳥の種類名	個体数	観察日	観察場所	雄／雌／などの区別	記録報告者氏名	脚注
アリスイ	1	2021/ 2/11	松阪市飯高町		西村 四郎	1
クビワキンクロ	1	2021/ 1/26	いなべ市大安町 両ヶ池	雌	横山 真一	2
アカハラ	1	2021/ 2/18	桑名市		横山 真一	3
カヤクグリ	2	2021/ 2/25	鈴鹿市大久保町 入道ヶ岳林道		笹間 俊秋	4
ソリハシセイタカシギ	1	2021/ 2/20	松阪市嬉野		小野 新子	5
ミヤコドリ	1	2021/ 2/27	津市高須町 安濃川	T6	片山 賢一	6
ミヤコドリ	1	2021/ 2/27	津市高須町 安濃川	T6	塚田 森生	7
ヒクイナ	1	2021/ 3/ 4	四日市市楠町		笹間 俊秋	8
アカハジロとメジロガモの雑種	1	2021/ 3/14	伊勢市朝熊町		中西 まほ	9
コウノトリ	2	2021/ 3/22	度会郡玉城町		福村 香織	10
サンショウクイ	1	2021/ 3/26	志摩市浜島町		濱屋 勝則	11
ナベヅル	4	2021/ 3/ 3	津市 河川敷		吉崎 幸一	12
サンショウクイ 亜種リュウキュウサンショウクイ	1	2021/ 4/ 4	志摩市浜島町		濱屋 勝則	13
ミヤコドリ	134	2021/ 4/ 4	松阪市 櫛田川河口		中村 洋子	14
サシバ	1	2021/ 4/10	松阪市嬉野		平井 正志	15
ヤツガシラ	1	2021/ 3/18	多気町仁田		北川 和則	16
ホウロクシギ	1	2021/ 4/17	松阪市喜多村		中村 洋子	17
コムクドリ	6	2021/ 4/17	松阪市曽原町		中村 洋子	18
ミヤコドリ	1	2021/ 4/18	四日市市 高松海岸	T6	加藤 雄大	19
コマドリ	1	2021/ 4/18	四日市市		今西 純一	20
センダイムシクイ	1	2021/ 4/18	四日市市		今西 純一	21
ビンズイ	2	2021/ 4/18	四日市市		今西 純一	22
サンショウクイ	3	2021/ 4/18	四日市市		今西 純一	23
マヒワ	30	2021/ 4/ 3	四日市市		今西 純一	24
エゾムシクイ	1	2021/ 4/25	四日市市		今西 純一	25
キビタキ	5	2021/ 4/25	四日市市		今西 純一	26
コマドリ	1	2021/ 4/25	四日市市		今西 純一	27
オオルリ	1	2021/ 4/25	四日市市		今西 純一	28
クロツラヘラサギ	1	2021/ 4/24	津市高須町 安濃川河口		中西 まほ	29
ミヤコドリ	1	2021/ 4/25	松阪市 三渡川	T6	吉崎 幸一	30

脚注

6 ,7, 19, 30. ミヤコドリの T6 は T6 フラッグ付きの個体。

1. 冬水田んぼにしているので、ときどきおもしろいのがきます。畔に降りてゴソゴソしていました。
2. 初認日は 2021 年 1 月 26 日の正午頃で両ヶ池にて越冬中です。
3. 自宅庭で、庭を歩いているアカハラを発見、アカハラの渡りは 3･4 月なのに早いな～と思いながら写真を撮ってみたら顔の黒いオオアカハラでした。
4. 林道の 7 合目辺り。越冬で低山まで来たか渡りの途中だと思います。
5. 2/27 現在滞在中。
8. 去年の初冬から、度々この川で採餌している姿が目撃されていました。

9. ホシハジロの群れの中に、1 羽だけ混じっていました。人慣れして、近づいても逃げません。
10. 南西方向より 1 羽ずつ飛来し、各々離れていたので撮影した写真は 1 個体のみです。
11. 普段聞きなれない野鳥の声を耳にしてカメラを構えました。
12. 越冬記録。2020 年 12 月に海岸近くの畑地で発見、約 3 か月姿がみられたが、この日の午前中飛び立ち、大きく旋回し上昇し続け、西から東に向かいその後確認できなくなった。
13. 先週末にも自宅裏にて発見したが、今回はその姿と撮影できた。しかし後に前回の個体とは若干違う点が見られ、リュウキュウサンショウクイでは無いかと思われます。
14. 珍しく櫛田川河口に集まっていました。
15. トビの上空を旋回しながら、鳴いて、警戒していた。昨年もサシバを観察した場所。
16. 多気町クリスタルタウンの駐車場、植え込みの地面にいたがすぐ飛びました。
17. 田んぼにいました。ホウロクシギは 3 月 22 日に坂内川河口で初認している。
18. ボラ池の中の木にコムクドリが 5 ～ 6 羽居ました。
20. 昨年、一昨年とほぼ同じ時期・同じ場所で確認です。複数羽いるものと思われます。姿は確認できません。
21. 昨年と同時期に記録しました。姿をちらっと確認できましたが音声のみ録音しました。メジロと一緒に行動しているようでした。
22. 毎年このあたりが渡りのルートになっているのでしょう。二羽で行動していました。
23. 鳴きながら上空を東から西へ飛んでいきました。去年と同じ時期の確認となりました。双眼鏡では確認しましたが、通過だったので映像記録は残せませんでした。
24. 今年はマヒワの当たり年なのか、4/3 に確認してから 4/18 もまだ滞在しています。30 羽以上はいるはずです。前回確認が 2014/12/31 ですので、約 6 年半ぶりとなります。
25. 少なくとも 3 か所で囀っているのが確認できました。一昨年が 4/27、昨年が 4/26、今年が 4/25 と、毎年同じ場所で同じ時期に確認できます。
26. 今年は大量に入り、昨年と比べると明らかに数が多い。蜂の飛ぶようなブーンという音を出しながらつばぜり合いをしています。
27. 2019 年に撮影した場所と同じ場所にも入ってきました。複数羽が小声で囀りながら、ときおり威嚇のような声を出します。（ジャッジャッジャという声が録音できました）周囲にキビタキもいましたが、地面から聞こえてきたのでコマドリだと思います。コマドリのこのような声は初めて聞きました。
28. 高い木の上で虫を捕っていました。
29. 1 時間近くほとんど眠っていました。ライオンのたてがみのような冠羽と、大きいクチバシは迫力がありました。
30. 25 羽の群れの中に T6 のフラッグの個体がいました。

アリスイ（撮影：西村 四郎）

ミヤコドリ（撮影：加藤 雄大）

クビワキンクロ（撮影：横山 真一）

ソリハシセイタカシギ（撮影：今井 光昌）

オオルリ（撮影：今西 純一）

サンショウクイ
亜種リュウキュウサンショウクイ
（撮影：濱屋 勝則）

アカハジロとメジロガモの雑種
（撮影：中西 まほ）

クロツラヘラサギ（撮影：中西 まほ）

ビンズイ（撮影：今西 純一）

ヒクイナ（撮影：笹間 俊秋）

探鳥会予告（201 年 7 月～ 9 月）

あいかわらず、新型コロナウイルスは県内でも蔓延しています。5 月 20 日現在、5, 6, 7, 8 月の探鳥会はコロナウイルスのため、中止する予定です。9 月以降、条件の整った探鳥会は開催しますが、また、直前に中止になる場合もありえます。リーダーに問い合わせる、あるいは当会のホームページ、Twitter(@wbsj_mie) などで確認してください。

なお、ひとりで、あるいは夫婦や子供と探鳥し、他人に合わない場合はほとんど感染の可能性がありません。大いに「ひとり探鳥」を楽しんでください。

● 7 月 4 日 (日) 足見川探鳥会
（コロナウイルスのため、中止予定）
開催地／ 四日市市山田町　足見川
集合／ 10：00　山田町 足見川「きたがわ橋」前
解散／ 12：00　集合地

● 7 月 25 日（日）木曽岬干拓地探鳥会　雨天決行！
（コロナウイルスのため、中止予定）
開催地／愛知県弥富市　鍋田干拓地・木曽岬干拓地
集合／　9：00　愛知県 弥富野鳥園
解散／ 12：00　集合地

キジバト

● 8 月 22 日（日）木曽岬干拓地探鳥会　雨天決行！
（コロナウイルスのため、中止予定）
内容は、7 月 25 日と同じです。

● 8 月 28 日（土）揖斐川ツバメのねぐら入り探鳥会
（コロナウイルスのため、中止予定）
開催地／桑名市　多度町福永
集合／ 17：00　桑名市多度地区市民センター 駐車場
解散／ 19：00　集合地

● 9 月 7 日（火）海蔵川で鳥見 ing!
（バードウオッチング）その 3　小雨決行！
開催地／四日市市西坂部町　海蔵川沿い
集合／　9：45　海蔵川代官橋 北詰
解散／ 12：00　集合地

● 9 月 11 日（土）五主探鳥会　小雨決行！
開催地／松阪市　五主海岸
集合／ 13：00　雲出川右岸堤防河口　五主海岸コーナー
解散／ 15：00　現地

● 9 月 23 日（木・祝）庭田山タカ渡り探鳥会
開催地／海津市　庭田山頂公園
集合／ 10：00　庭田山頂公園駐車場
解散／ 13：00　集合地

● 9 月 26 日（日）木曽岬干拓地探鳥会　雨天決行！
内容は、7 月 25 日と同じです。

探鳥会報告（2021 年 1 月～ 4 月）

●大淀海岸探鳥会（中止 = リーダー探鳥）

コロナウィルス感染拡大のため中止
2021 年 1 月 31 日（日）9：30 ～ 11：30
多気郡明和町　大淀海岸周辺
中村悦子　　参加者 2 名（会員 2 名）

ヒドリガモ、マガモ、ホシハジロ、カンムリカイツブリ、ハジロカイツブリ、ヒメウ、カワウ、オオバン、シロチドリ、ユリカモメ、セグロカモメ、トビ、ハイタカ、ハシボソガラス、ヒヨドリ、メジロ、ムクドリ、ツグミ、スズメ、ハクセキレイ、ビンズイ、カワラヒワ、ホオジロ、ドバト　計 24 種

探鳥会は新型コロナウィルスが収束していないので中止しました。風が強い季節で、漁港内のカモの個数は少なく、テトラでもカワウが 10 羽と少なくて、ヒメウが 3 羽並んでいました。最近はオオバンが多くなってきて目立ちます。

いつも観察できていた種がいなくて寂しい気持ちになりました。

●宿泊探鳥会

コロナウィルス感染拡大のため中止
2021 年 2 月 6 日（土）・7 日（日）

●鈴鹿青少年の森探鳥会

コロナウィルス感染拡大のため中止
2021 年 2 月 7 日（日）

●丹生探鳥会

2021 年 2 月 13 日（土）9：30 ～ 11：30
多気郡多気町　丹生
中村洋子　西村四郎　　参加者 20 名（会員 20 名）

トビ、カケス、ハシブトガラス、ヤマガラ、ヒヨドリ、エナガ、メジロ、ミソサザイ、シロハラ、ツグミ、ルリビタキ、ジョウビタキ、イソヒヨドリ、スズメ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ビンズイ、アトリ、カワラヒワ、イカル、ホオジロ　計 22 種

集合場所ではイソヒヨドリ、セグロセキレイがじっくり見られたが、他の場所では鳥が葉に隠れて見づらかったが、メジロはツバキの蜜を吸いに来ていて分かりやすかった。山の方は、声はすれど姿は見えずでした。でもアトリの大群（50 ±）が現れ、少しホッとしました。下見の時（10 日）はノスリが飛んでいたが、今日はトビでした。

●五十鈴川周辺探鳥会

2021 年 2 月 14 日（日）10：00 ～ 11：30
伊勢市浦田町　五十鈴公園
高木正文　作田久春　　参加者 4 名（会員 4 名）

カルガモ、カイツブリ、キジバト、アオサギ、ダイサギ、コサギ、コゲラ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヒヨドリ、ムクドリ、シロハラ、ツグミ、ジョウビタキ、イソヒヨドリ、スズメ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、カワラヒワ、ホオジロ　計 22 種

新型コロナウィルスの影響により中止の予定でしたが、二人の参加があり開催しました。

天気は暖かくて最良の日でしたが、五十鈴川は最近になく水不足で、カワセミのような水鳥が少なかったです。

●三滝川かんさつ会

2021 年 2 月 20 日（土）9：30 ～ 12：00
三重郡菰野町　三滝川河川敷
矢田栄史　鈴木健真　　参加者 16 名（会員 16 名）

キジバト、イカルチドリ、ハイタカ、コゲラ、モズ、ハシボソガラス、シジュウカラ、ヒバリ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、メジロ、ムクドリ、シロハラ、ツグミ、ジョウビタキ、スズメ、セグロセキレイ、ビンズイ、カワラヒワ、ベニマシコ、シメ、イカル、ホオジロ、アオジ、オオジュリン　計 26 種

気温が高めで風も比較的弱く、春らしくホオジロやウグイスの囀りを聞くことができたかんさつ会となりました。葦原ではオオジュリンが複数。また河原にいたイカルチドリが飛んで、皆さんの上を鳴きながら旋回しました。ヒバリの空中での囀りシーンも皆さんで見ることができました。26 種を見ることができ、初参加の方々にも、身近にもこんな鳥たちがいるんだと感じていただけたかんさつ会となりました。

●津偕楽公園探鳥会（中止＝リーダー探鳥）
コロナウィルス感染拡大のため中止
2021 年 2 月 22 日（月）
津市広明町　津偕楽公園
岡 八智子　　参加者 1 名（会員 1 名）
キジバト、コゲラ、ハシブトガラス、シジュウカラ、ヒヨドリ、メジロ、シロハラ、ジョウビタキ、ビンズイ　計 9 種

コロナ渦の為中止にしました。当日、時間に行きましたら 3 名みえて中止を伝えました。

22 日改めて 1 人で探鳥しました。綺麗に足元を掃除されて以前の鳥達が居ません。

●木曽岬干拓地探鳥会
2021 年 2 月 28 日（日）9：00 ～ 12：00
愛知県弥富市 鍋田干拓地・木曽岬干拓地
共催団体／愛知県野鳥保護連絡協議会
米倉 静　笹間俊秋　　参加者 9 名（会員 9 名）
オカヨシガモ (20)、マガモ (15)、カルガモ (20)、ハシビロガモ (15)、コガモ (35)、ホシハジロ (13)、キンクロハジロ (5)、カイツブリ (3)、キジバト (7)、カワウ (16)、アオサギ (1)、オオバン (15)、タゲリ (16)、ケリ (5)、クサシギ (3)、イソシギ (1)、ミサゴ (4)、トビ (1)、オオタカ (1)、ノスリ (1)、カワセミ (3)、モズ (3)、ハシボソガラス (30)、ハシブトガラス (5)、ヒバリ (20)、ヒヨドリ (8)、ウグイス (3)、メジロ (5)、ムクドリ (10)、シロハラ (1)、ツグミ (60)、ジョウビタキ (3)、スズメ (40)、ハクセキレイ (3)、セグロセキレイ (1)、タヒバリ (13)、カワラヒワ (15)、ベニマシコ (4)、ホオジロ (10)、アオジ (3)、ドバト (6)　計 41 種

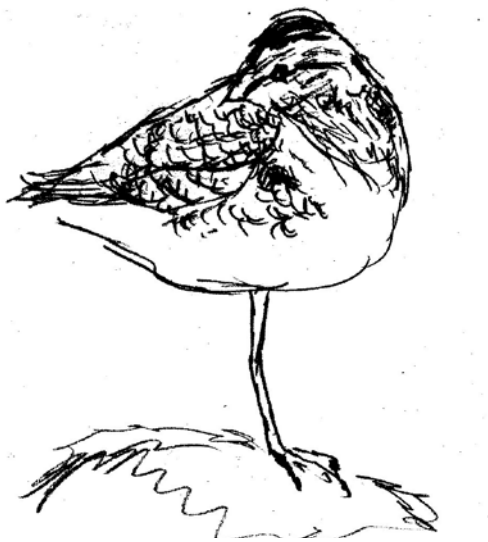
本来、2 月は中止して担当者で調査する予定でしたが、告知がうまく伝わっていなくて会員 7 名が参加されました。晴れて気候も良かったですし、堤防工事も行われていなかったので急遽実施することになりました。空地のセイタカアワダチソウに 4 羽のベニマシコが種子を食べていて、近くで観察することができました。田んぼでは多くのタゲリやツグミがいて、干拓地では早くもヒバリやウグイスの囀りが聞こえてきて、春の訪れを感じる探鳥会となりました。

●身近な冬鳥を観察しよう (安濃川河口)
2021 年 3 月 6 日（土）9：30 ～ 11：30
津市一身田上津部田・高洲町
三重県総合博物館・安濃川河口
共催団体／三重県総合博物館・三重県環境学習情報センター
平井正志　木村京子　参加者 32 名（会員 2 名）
オカヨシガモ、ヒドリガモ、マガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、ウミアイサ、カワウ、オオバン、ユリカモメ、ウミネコ、カモメ、セグロカモメ、ミサゴ、トビ、ハシボソガラス、ドバト　計 16 種

定員の 2 倍の応募があったという、盛況であった。コロナで、イベントが減っているためであろう。博物館内で、カモやミサゴの剥製を見て、体の作りを予習した。安濃川河口は風が強かった。堤防へ上がったすぐに、向かいの砂洲を散歩する人。こちらが野鳥の観察しているのを気づく様子もなく歩き回り、休んでいたカモは一羽もいなくなった。そのうち、上空にミサゴ。豪快なダイビングも見せてくれた。獲物を捕ることができなかったが、ミサゴはしばらく河口付近を飛び回った。逃げたカモも人がいなくなると戻り、色々なカモが見られた。説明する人が少なく、かつ、大半が全くの初心者で、十分行き届いた説明ができなかったのは残念。

●石垣池探鳥会
2021 年 3 月 7 日（日）10：00 ～ 12：00
鈴鹿市石垣　石垣池
市川美代子　藤井英紀　参加者 11 名（会員 11 名）
ヒドリガモ、マガモ、カルガモ、コガモ、キジバト、カワウ、ケリ、コゲラ、モズ、ハシブトガラス、ハシボソガラス、ツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、メジロ、ムクドリ、アカハラ、ツグミ、ジョウビタキ、ハクセキレイ、ホオジロ、アオジ　計 22 種

会員限定にいたしました。カモは少なかったですが、コガモがアシに産卵中のコイの卵を食べているのを、すぐ近くで見ることができました。



オオハシシギ

●宮リバー公園探鳥会

2021 年 3 月 20 日（土・祝）8：30 ～ 11：00
度会郡度会町　宮リバー度会パーク
小坂里香　濱屋勝則　　参加者 10 名（会員 10 名）

キジ、カルガモ、カイツブリ、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、イカルチドリ、トビ、カワセミ、コゲラ、アオゲラ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヤマガラ、シジュウカラ、ヒバリ、ツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、メジロ、ムクドリ、シロハラ、ツグミ、ジョウビタキ、イソヒヨドリ、スズメ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ビンズイ、カワラヒワ、イカル、ホオジロ、アオジ、ドバト　計 37 種

ソメイヨシノの開花には少し早かったので人も少なく、静かに探鳥を楽しむことができました。

留鳥のイソヒヨドリのメスに始まり、たくさんいるツグミなどの冬鳥、セキレイの仲間の見分けなどを解説ポイントにして、初心者の方にも喜んでいただけたと思います。会員歴の浅い方、また長い方でも初めてお目にかかる会員さんに参加していただけて良かったです。カワセミ、キセキレイなど遠くの鳥も参加者の方に見つけていただき、普通種ばかりでしたが 37 種の野鳥が確認できました。半面、公園の環境が年々変わり、整備（藪の切り払いなど）が進んで野鳥との距離感が遠くなり、人に優しく野鳥に優しくない公園化が進んでいるのはかなり残念ではあります。

●木曽岬干拓地探鳥会

2021 年 3 月 28 日（日）9：00 ～ 11：30
愛知県弥富市 鍋田干拓地・木曽岬干拓地
共催団体／愛知県野鳥保護連絡協議会
近藤義孝　笹間俊秋　参加者 5 名（会員 5 名）

キジ (1)、オカヨシガモ (2)、マガモ (5)、カルガモ (19)、ハシビロガモ (4)、コガモ (36)、ホシハジロ (2)、キンクロハジロ (5)、カイツブリ (1)、キジバト (15)、カワウ (20)、アオサギ (3)、オオバン (11)、ケリ (3)、コチドリ (2)、イソシギ (1)、ミサゴ (2)、トビ (1)、チュウヒ (3)、ノスリ (1)、カワセミ (2)、チョウゲンボウ (1)、モズ (2)、ハシボソガラス (34)、ハシブトガラス (17)、ヒバリ (8)、ツバメ (1)、ヒヨドリ (7)、ウグイス (5)、ムクドリ (5)、ツグミ (10)、スズメ (30)、ハクセキレイ (3)、セグロセキレイ (1)、タヒバリ (20)、カワラヒワ (6)、ホオジロ (2)、ドバト (23)　計 38 種

開始時には雨が降っていたのですが、途中からやみました。チュウヒも何回か現れてくれました。

●海蔵川で鳥見 ing!(バードウオッチング) その 1

2021 年 4 月 10 日（土）9：45 ～ 11：45
四日市市西坂部町　海蔵川沿い
川瀬裕之　　参加者 7 名（会員 7 名）

キジ、ヒドリガモ、カルガモ、コガモ、キンクロハジロ、カイツブリ、キジバト、カワウ、イソシギ、カワセミ、モズ、ハシボソガラス、イワツバメ、ヒヨドリ、ムクドリ、ツグミ、スズメ、ハクセキレイ、カワラヒワ、アオジ、ドバト　計 21 種

いよいよ春が本番迎えようとしているような青空に恵まれ、ちょっと風が強く薄手のアウターを着て丁度という気温の中、今年度 1 回目、およそ 2 年ぶりの海蔵川での探鳥会がはじまりました。

早速お出迎えしてくれたのは、キンクロハジロです。それとコガモ、ヒドリガモも。そろそろ北への旅路に備えて体力を蓄えてるんでしょうか、のんびり泳いでました。上空にはイワツバメが飛び交い、冬鳥と夏鳥が見られる短く良い季節になりました。風が強かったので小鳥の出が悪かったのですが、カワセミが甲高い鳴き声と共にコバルトブルーの姿を見せてくれました。後半、左岸側の農道でアオジがエサを獲ってる姿を長い時間見ることが出来、一同かわいい姿に笑顔で帰路に着きました。

●五十鈴川上報流探鳥会　　雨のため中止

2020 年 4 月 17 日（土）

コサギ

●五主探鳥会　　雨のため中止

2021 年 4 月 17 日（土）9：00 ～
松阪市　五主海岸・大池
西村四郎

　雨のため中止としました。ただ、ホームページに、お試し入会は可能と案内してもらったので、現地で待ちましたが誰も見えませんでした。大池には、ツルシギ、オオハシシギ、シマアジなどが来ていました。その後は、関係者 8 名で香良洲海岸に移動して、しろちどり保護看板を 2 か所設置しました。

●木曽岬干拓地探鳥会（中止 = リーダー探鳥）

コロナウィルス感染拡大のため中止
2021 年 4 月 25 日（日）9：00 ～ 11：00
愛知県弥富市 鍋田干拓地・木曽岬干拓地
共催団体／愛知県野鳥保護連絡協議会
近藤義孝　笹間俊秋　参加者 3 名（会員 3 名）
リーダーで個別に観察をまとめる

キジ (1)、オカヨシガモ (1)、カルガモ (100)、コガモ (8)、カイツブリ (1)、キジバト (2)、カワウ (13)、アオサギ (2)、ダイサギ (4)、オオバン (1)、ケリ (2)、イソシギ (1)、ミサゴ (1)、トビ (1)、チュウヒ (1)、カワセミ (1)、チョウゲンボウ (1)、ハシボソガラス (150)、ハシブトガラス (30)、ヒバリ (10)、ツバメ (100)、ヒヨドリ (5)、ウグイス (5)、セッカ (20)、ムクドリ (15)、キビタキ (1)、スズメ (30)、カワラヒワ (2)、ホオジロ (2)、ドバト (14)　計 30 種

　愛知県に「まん防」が発令されたため、急遽探鳥会は中止となりました。3 名のリーダーで観察地を回り調査しました。観察の最後にチョウゲンボウとトビがバトルしていた。

原稿募集

　編集部では会報「しろちどり」に掲載する原稿を募集しています。
　「ひとり探鳥」は　探鳥会報告の形式と同じ形式で掲載しますので、探鳥者名、日時、場所、出現した鳥名、コメントをお寄せください。むろん写真も OK です。探鳥会が平常通りに行われていても「ひとり探鳥」は掲載しますので奮ってご投稿ください。
　「写真」も随時募集します。複数枚の組写真も OK です。簡単なコメントを付けてください。
また「イラスト」も随時募集しています。
　投稿は当会のホームページの一番下の「会報へのご意見・ご投稿」から、または右記の住所へ郵送でお願いします。　（編集部）

チュウヒ

編集後記

　2020/10/18 から野鳥の会三重の公式ツイッターを始めていますが、その「中の人」をやってます。と言っても必要最低限の情報だけで自由な発言は意図的に控えています。それでも少しはホームページや会報との差別化を図るためにと、探鳥会が行われる場所の空撮を投稿しているので、よろしければ見てやってください。
　空撮は趣味でやっているドローンの DJI MINI 2 で撮ったものです。この機体は比較的安価な割に優秀で、4K 動画も撮影できます。
　探鳥会の行われるところの空撮をしなければと、せっせと出かけては空撮をしていましたが、また新型コロナの感染拡大のため探鳥会はのきなみ中止、ツイッターでも休止のお知らせをするのみになってしまいました。探鳥会は中止なので、当分は焦ることなくマイペースであちこち行って空撮を楽しむことにします。　(A.M.)

しろちどり　109 号
2021 年 6 月 15 日発行
題　字：濱田 稔
表紙絵：三曽田 明
カット：平井 正志
編　集：平井 正志・笹間 俊秋・三曽田 明
発行所：日本野鳥の会三重
平井 正志　方
〒 514-2325 津市安濃町田端上野 910-49
ホームページ　http://miebird.org/
印　刷：株式会社プリントパック
〒 617-0003 京都府向日市